

HOKUSEI@COM

2018
JANUARY
vol. 24

- | | | | |
|---------------|---|----|---|
| 04
—
05 | <p>[学生たちの素顔]
短期大学部英文学科1年 早弓 結菜さん
踊る。演じる。憧れの舞台に立つ日を夢みて。</p> <p>経済学部経済法学科4年 星野 真輝さん
みんなで大学を盛り上げたい!改革に挑んだ4年間。</p> | 09 | <p>[北海道150年記念事業パートナー認定]
北海道150年タイアップ企画のほか、「北海道みらい事業」に認定されたゼミの活動も。</p> |
| 10 | <p>[学生広報委員 企画ページ]
ヤチフェス、チャペルコンサート、星学祭のご紹介。</p> | 11 | <p>[HOKUSEI CAMPUS NEWS]
2017年度後期に実施した事業や活動の一部を紹介。</p> |
| 12 | <p>[HOKUSEI INFORMATION 北星学園大学からのお知らせ]
「学生への市営住宅提供事業」に向けた札幌市と本学との協定締結式。</p> <p>[まちがいさがしクイズ]
北星学園大学オリジナルグッズが当たる!</p> | | |
| 08 | <p>[北星学園創立130周年]
130年の歩みを祝い、いのちの未来を思うひととき。</p> | | |



02-03

[特集] 漫画家 大和和紀さんインタビュー

時を超えて愛される 大和和紀の世界

（インタビュアー）

文学部 心理・応用コミュニケーション学科3年 小山 龍

社会福祉学部 福祉臨床学科4年 西山 萌美



©大和和紀「はいからさんが通る 新装版」／講談社

時を超えて愛される 大和和紀の世界

『はいからさんが通る』『あさきゆめみし』など、数々の人気作品を世に送り出してきた漫画家・大和和紀さん。昭和生まれの少女たちを夢中にさせ、今なお色あせることのない大和和紀ワールドの魅力に、平成生まれの学生たちが迫りました。

ラブコメディーから歴史大作まで、漫画への挑戦

小山：インタビューに先立ち『はいからさんが通る』を読ませていただきました。主人公・花村紅緒をはじめ登場人物が個性豊かでギャグが満載。予想を超える展開で、少女漫画のイメージが覆りました。

大和：『はいからさんが通る』を描いたのは40年以上も前ですが、若い方々にも楽しんでもらえたならうれしいですね。当時は「今まで描いたことのない作品を描きたい」という思いから、大正時代を舞台にしたラブコメディーに挑戦しました。連載当時はたくさんのファンレターをいただきましたが、返事を書く暇がないほど忙しかったので、作品の中にお返事コーナーを盛り込んだこともあります。

小山：テレビアニメや実写映画のほか、昨年秋には宝塚歌劇の舞台や劇場版アニメも公開されましたそうですね。

大和：時代を超えて読み継がれ、アニメや映画に形を変えて何度も世に出る作品を描くことができたことを漫画家として幸せに思います。

西山：私は『イシュタルの娘～小野於通伝～』を読ませていただきました。安土桃山～江戸時代の歴史がドラマチックに描かれ、とても面白かったです。大和先生は『源氏物語』を原典とする『あさきゆめみし』など、歴史作品を多く描かれていますね。資料の収集や調査が大変だったのではないかでしょうか？



大和和紀さん 作品紹介

〈代表作品〉

●はいからさんが通る

1975～1977年連載。大正時代を舞台としたラブコメディー。第1回講談社漫画賞受賞。

●あさきゆめみし

1979～1993年連載。『源氏物語』全54帖を漫画化。シリーズ累計1,800万部を売り上げ、3カ国語に翻訳された。

●イシュタルの娘～小野於通伝～

2009～2017年連載。安土桃山～江戸時代に実在した小野お通を主人公にした歴史漫画。



©大和和紀
『はいからさんが通る 新装版』／講談社



PROFILE

やまと わき
大和 和紀

札幌市出身。1966年、北星学園女子短期大学(現:北星学園大学短期大学部)出身。高校卒業後に漫画家デビュー。ラブコメディーやシリアル、歴史ものなど幅広いレベルで多くのヒット作を生み出し、現在も精力的に執筆活動を続けている。



大和：もともと調べ物が好きですし、何よりも歴史への興味が原動力になっています。とはいって『あさきゆめみし』の頃はインターネットのない時代で絵的な資料が乏しく、取材のため何度も京都に足を運びました。

西山：『イシュタルの娘～小野於通伝～』は着物の柄や武士の鎧などが細部まで緻密に描かれていて驚きました。

大和：制作にあたってはストーリー作りから絵コンテ、下書き、主要人物の描き込みまで私が行い、服飾や背景などの細かい部分は専門スタッフが担当しています。一本の作品を完成させるために、何人もの有能なスタッフが支えてくれているんですよ。

漫画家の地盤を築いた北海道での学生時代

小山：大和先生は北星学園女子中学校、北星学園女子高等学校から北星学園女子短期大学に進学され、18歳で漫画家デビューされたと伺っています。漫画家を目指したのはいつ頃からでしょうか？

大和：高校2年生の頃です。それまでにも趣味で漫画を描いて同級生に読んでもらっていました。最初は忍者漫画を描いていたんですが、女子校なので受けなくて、絵柄もストーリーも変えて少女漫画を描き始めたんです。その後出版社の新人漫画賞に応募し、高校卒業と同時にデビューしました。



©大和和紀
『イシュタルの娘～小野於通伝～』／講談社



©大和和紀
『大和和紀画業50周年記念画集～彩～』／講談社



西山：どんな学生時代を過ごされたのでしょうか？

大和：当時の北星女子中学・高校は校則が厳しくて、保護者の同伴なしに喫茶店に入るのも禁止。高校時代に漫画友だちができてこっそり喫茶店で会っていたんですが、毎回ピクピクしていましたよ。その漫画友だちが『日出處の天子』などで有名な山岸涼子先生です。短大では勉強の合間に漫画を描いては出版社に送る日々。女子校育ちだったおかげで女の子の心の機微がわかるようになり、ストーリー作りに役立ちましたね。歴史や国語が好きだったことも、その後の作品に影響しているかもしれません。短大卒業後、連載が決まったのを機に、同じく札幌出身の漫画家・忠津陽子先生と一緒に上京。同じアパートの隣室に入居し、漫画家として本格的に始動しました。6畳一間の生活でしたが、忠津先生と互いに手伝い合ったりして楽しかったですね。

小山：北海道出身であることが漫画に影響をもたらした点はありますか？

大和：初めて京都に行った時、生まれ育った北海道にはない竹林や柿の木、町家の佇まいの美しさに感激しました。『あさきゆめみし』の根底には、道産子だからこそ感じた新鮮な感動があるんです。

西山：現在も第一線で活躍されていますが、漫画を描く姿勢に変化はありますか？

大和：年齢を重ねて自分が変化することで絵柄も変化してきましたが、どの作品も主人公が元気で前向きであることは一貫して変わりません。読者が身近に感じて共感できるキャラクターを描きたいと思っています。

小山：漫画家の夢を実現した大和先生から、これから社会に出る私たちにアドバイスをお願いします。

大和：私は高校2年で漫画家になると決めましたが、もっと違う世界を経験しておけばよかったと思うことがあります。旅行やアルバイトなど学生時代にしかできない経験をたくさん積み、皆さんにも広い視野と豊かな人間性を身につけてほしいですね。そして自分の「好き」を持続すること。好きだと言えるものがあることは気持ちの支えになるし、好きなことを極めれば社会人となっても、いつかきっと役に立つことがあるはずです。

小山・西山：本日は貴重なお話をありがとうございました。

こ やま りょう
小山 龍
文学部
心理・応用コミュニケーション学科3年
(北星学園大学附属高等学校出身)

「ギャグで笑わせるのも笑うのも好き」という大和先生の人柄が作品にも表れていると感じました。文化や社会の動きに敏感な姿勢は、ライターを目指す私にとって大いに勉強になりました。

にしやま もえみ
西山 萌美
社会福祉学部
福祉臨床学科4年
(日本放送協会学園高等学校出身)

著名な方でありながら親しみやすく、楽しい雰囲気の中でインタビューさせていただきました。「好き」を持続することがエネルギーになるというお話を印象的で、私も社会に出る上でそうありたいと思いました。



©大和和紀『はいからさんが通る』／講談社

紅緒と少尉の恋がスクリーンでよみがえる！

劇場版アニメ「はいからさんが通る」公開！

はいから
さん
が
通
る
（劇場版）

©大和和紀・講談社／劇場版「はいからさんが通る」製作委員会

明るく元気なおてんば娘・紅緒と青年将校の許婚・伊集院少尉との恋物語が劇場版アニメーションになってスクリーンに登場！昨年、「はいからさんが通る 前編～紅緒、花の17歳～」が公開され、原作ファンはもちろん若い世代にも好評を博しました。2018年には「はいからさんが通る 後編～花の東京大口マン～」が公開予定です。

踊る。演じる。 憧れの舞台に立つ日を夢みて。



北星学園大学短期大学部英文学科1年
早弓 結菜 さん (北星学園女子高等学校出身)

2017年11月に札幌市内で上演された舞台『アンネの日記』に、本学学生の早弓結菜さんがアンネ・フランク役で出演。自らアウシュヴィッツを訪れた経験を活かし、大役を果たしました。舞台の実績を積みながらミュージカル女優の夢を追いかける早弓さん。現在は学業と並行してアイドルユニットの活動にも力を注いでいます。

舞台を通して戦争の悲惨さを伝えたい

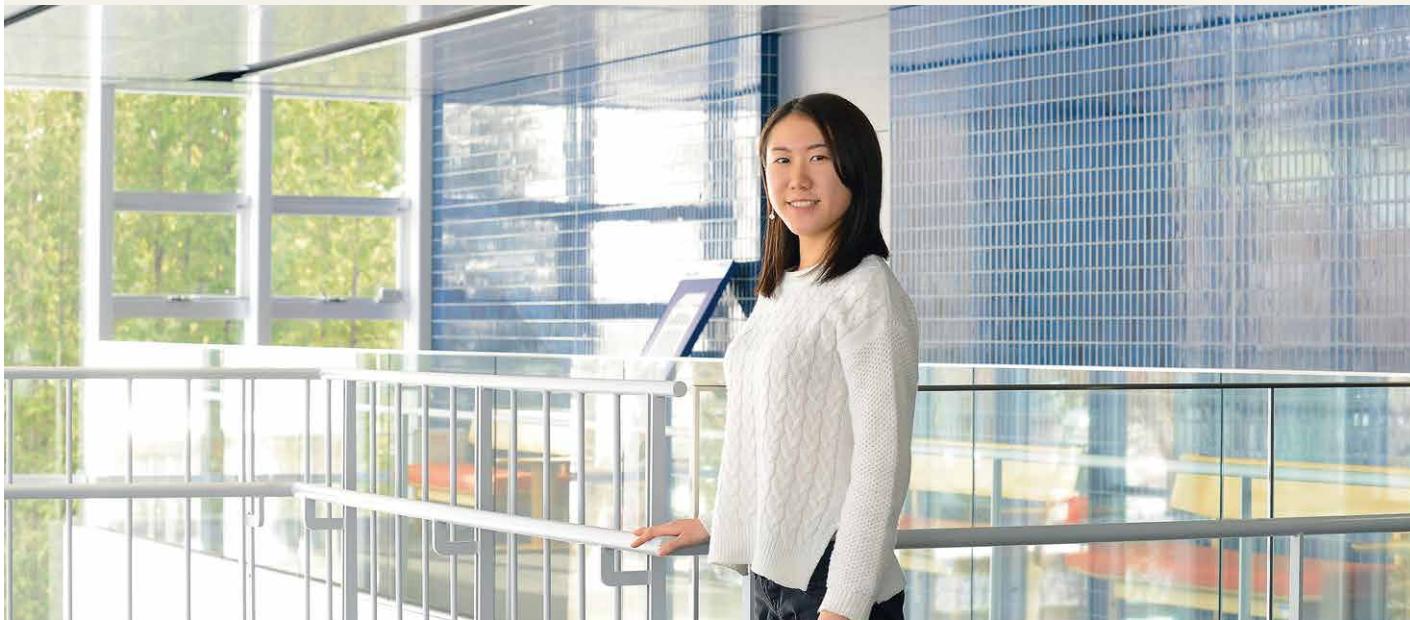
中学入学と同時に演劇を始め、高校1年の時に札幌市内の劇団「座・れら」の作品『カモメに飛ぶことを教えた猫』でヒロインの少女時代を演じました。上演終了後に『アンネの日記』のお話をいただいたのですが、1年間のアメリカ留学が決まっていたため一旦保留に。帰国後、正式に主演が決定しました。稽古に先立ち、短大入学前の春休みを利用してオランダやポーランドを自費で訪問。アンネの隠れ家やユダヤ人博物館、アウシュヴィッツ=ビルケナウなどを見学しました。これが現実なのかと信じられない思いでしたが、祖先が受けた苦しみと向き合うために国旗を体に巻き付けて見学するイスラエル人に出会った時、アンネの心にふれたような気がしました。

アンネは15歳の普通の女の子。きっとアンネ同様の運命を辿った名もなき普通の女の子がたくさんいたのだろうと思います。普通の幸せを奪う戦争がどれほど悲惨なことか、「座・れら」の『アンネの日記』を通じて戦禍に生きた人々の思いを追体験することで、多くの人に感じてほしい。そんな思いでアンネを全力で演じました。

社交ダンスを武器に、夢はミュージカル女優

もともと舞台表現に興味があり、中学時代から演劇と並行して社交ダンスを学んでいました。短大入學後にアイドルユニット「Cha-Cha Girls」を結成し、道内各地のイベントに出演しています。特徴は社交ダンスのステップを応用したパフォーマンス。地域を盛り上げるお手伝いができるうれしいですね。夢はミュージカル女優。ミュージカルの本場ブロードウェイはレベルが高く、際立った実力がないと認めてもらえません。一歩でも夢に近づくために、自分らしさを表現できる社交ダンスの表現力を高めていきたいと思っています。

将来はアメリカでミュージカルの道を目指したいので、中学、高校、短大と北星学園で学び、英語力に磨きをかけることができとても幸せいります。短大にはさまざまな世界で活躍する著名な卒業生がたくさんいて、後輩として誇りに思うと同時に刺激をいただいています。私もステージを通じて感動を生み出す表現者を目指して頑張ります。



初めての舞台「カモメに飛ぶことを教えた猫」。これを機にアンネ役に抜擢された思い出の作品です。



「アンネの日記」千秋楽。フランク一家を演じた皆さんには、ほんとうの家族のように接していただきました。



Cha cha Girls 出演情報：「国際交流舞踏会」
2/25(日)13:00～札幌パークホテル
お問合せ：011-271-3889(夢の懸け橋)

みんなで大学を盛り上げたい! 改革に挑んだ4年間。

北星学園大学経済学部経済法学科4年

星野 真輝 さん（滝川高等学校出身）



学び方も生活スタイルも人それぞれの大学で、学部・学科の垣根を越えて一致団結するのは容易なことではありません。気持ちの温度差があった大学祭実行委員会を改革し、学生自治会の復活に力を注いだ星野くん。その努力は仲間の心に小さな変化を呼び起こすとともに、「公務員として社会の役に立ちたい」という夢につながる大きな糧となりました。



2年次、大学祭実行委員会の仲間とともに。学年別のカラフルなパーカーが団結力の証。

大学祭実行委員会の改革に挑戦

高校時代は生徒会執行部に所属し、活発なメンバーとともに充実した生徒会活動に参加していました。ところが大学で大学祭実行委員会に入ると、何か違和感がありました。大学は学部・学科ごとにカリキュラムが異なるので、メンバー60人全員が集まるのは至難の技。全体の意識共有が難しく、気持ちに温度差が生じていたんです。

2年次に議長となり、一致団結して大学を盛り上げたい一心で“委員会改革”に挑戦しました。まずは各自の大学祭に対する思いや要望を引き出すために意識調査を行ったほか、客観的な見直しをはかるため、他大学の運営組織との意見交換を実施。委員会活動を活性化させるために装飾部署を新設したり、委員会規定を新たに作成したりもしました。実行委員は毎年新メンバーが加わり意思統一の継続は大変で、4年生などの先輩がいかに意志を遺すかが問われますが、徐々に雰囲気が変わっていくことを期待しています。僕自身も、自ら行動して周囲を巻き込みながら物事を動かしていく力がついたことは大きな収穫でした。

学生自治会や法学研究会でも全力投球

3年次からは大学祭実行委員会と並行して学生自治会にも参加しました。学生自治会は10年ぶりの復活で、初期メンバー8人の主な仕事は本格始動に向けた基盤作り。活動趣旨について話し合ったり、学生向けの意見箱を設置して大学への意見や要望をまとめたり、サークルと協力して新入生歓迎会の運営にもあたりました。当面の課題は来年度以降の後継者問題。自治会活動=堅苦しい、面倒だと思われており、活動そのものがあまり認知されていないのが現状ですが、学生一人ひとりの声を大学に届け、よりよい学生生活を実現する上で意義のある活動です。大学祭実行委員会と同様、今後の活動を担う後輩がひとりでも多く増えればと願っています。

学業面では好きな法学に打ち込み、法学研究会に所属。高校生向けキャンパス説明会での模擬裁判では検察官を演じました。もともと法律に携わる仕事がしたかったので、こうした経験はとても有意義でした。念願かなって公務員試験に合格し、この春から札幌地方検察庁で検察事務官になります。充実した学生生活が終わる寂しさと同時に、新たな一步を踏み出すことに喜びを覚えます。



体育祭の最終日ミーティング。4年生が作る料理で互いの労をねぎらうのが伝統です。



キャリアデザインプログラムで公務員試験の合格体験を発表。後輩の就活支援も先輩の役目です。

OB & OG interview 卒業生は、いま。

人生の真ん中に歌がある。 歌で世界とつながっていく。

幅広い分野で活躍する本学卒業生ですが、なかでも鈴木さんは大学で心理学を学んだのちテノール歌手という異色の経歴の持ち主。昨年11月に本学チャペルコンサートのため久しぶりに母校を訪れた鈴木さんに、学生時代の思い出や歌への思いなどを伺いました。



歌で生きていく。仕事を辞めて藝大へ

大勢の観客が詰めかけたチャペルにヘンデルのアリアが響きわたり、コンサートが幕を開けました。歌うのは本学卒業生のテノール歌手、鈴木准さん。この日はピアニストの河野紘子さんとともに、母校のチャペルで艶やかな歌声を披露してくださいました。鈴木さんのチャペルコンサートは今回で2回目。「この場に立つと昔のことを思い出しますね。中学・高校と合唱部で、大学進学後も声楽のレッスンを続けていたので、時々友人にピアノを弾いてもらってチャペルで練習していたんですよ」と懐かしそうに語ります。

大学卒業後、音楽関係の企業に就職した鈴木さん。歌は趣味のつもりでしたが、実際はそう簡単に割り切れるものではありませんでした。「自分は歌で生きていく」と決断して1年半後に退社。東京藝術大学を受験し、合格しました。「合唱のエキストラや聖歌隊などで学費を稼ぐ一方、NHN交響楽団や小沢征爾氏のヘネシオペラ『魔笛』の合唱にも出演させていただきました。在学中から超一流の舞台をいち早く体験できたのは幸運でしたね」。

ブリテンをライ自然而国内外で活躍

大学院進学を目指す中、鈴木さんはイギリスの作曲家、ベンジャミン・ブリテンの作品に出会います。20世紀を代表すると言われるドラマチックな歌曲と奥深い詩に魅せられた鈴木さんは大学院でブリテンを研究。2012年にロンドンとオーフォードの教会で演じたブリテン『カーリュー・リヴァー』の狂女役は、鈴木さんの当たり役となりました。大学のチャペルで歌っていた青年が偉大な作曲家と出会い、彼の故国のチャペルで歌手として羽ばたく——歌に導かれる鈴木さんの人生もまた、歌劇のようにドラマチックです。

鈴木さんは現在東京を拠点に、国内はもとよりアジア・ヨーロッパなど世界各地で公演を行っています。また、作詞家・松本隆氏による現代口語訳のシューベルト『冬の旅』CDブックに参加するなど、舞台以外にも活躍の場を広げています。「仕事である以上無邪気に楽しむわけにはいかないけれど、無心に歌と向き合える瞬間があります。歌は自分の中心であり、世界のすべてとつながる唯一の存在です」と鈴木さん。今後の活躍に期待が高まります。



オペラ『魔笛』(宮本亞門演出・東京二期会主催公演 2015年)



オペラ『蝶々夫人』(田尾下哲演出・神奈川県民ホール主催公演 2015年)



2015年公演の再演となる「魔笛」(宮本亞門演出)にタミー役で出演します。

- ★ 3/11(日) 横須賀芸術劇場
- ★ 3/18(日) 相模女子大学グリーンホール



東京・春・音楽祭2018「ベンジャミン・ブリテンの世界 II」にも出演します。

- ★ 3/19(月) 上野学園石橋モモリアルホール

暗闇で苦しむ人々へ、 情報という光を届けたい。

さまざまな仕事を“放浪”した20代。報道の現場を走り続けた30代。
そして「北海道孝行」と「がん医療」を二本柱とする生き方を確立した40代。
年齢を重ねるほどに輝きを増すキャスター・松本裕子さん。
その笑顔には、北海道に生きる人々を思う温かい心が宿っています。



uhb北海道文化放送 キャスター

まつ もとこ ゆうこ

松本 裕子 さん

北星学園女子短期大学

(現・北星学園大学短期大学部)

英文学科卒業(1993年)

(北海道函館東高等学校出身)

本学卒業後、翻訳学校を経てイギリスに

1年間留学。外資系企業秘書やキャビ

ンアテンダントを経てフリーナウンサー

に転身し、福井テレビを経て「uhbスー

パーニュース」でキャスターを10年間務

める。「札幌クロニクル」「がんを防ごう

などの番組を担当。



番組を通して“北海道孝行”がしたい

本学卒業後、秘書やキャビンアテンダントを経てフリーナウンサーになった松本さん。福井テレビで活躍中の2003年、転機が訪れました。「北朝鮮による拉致被害者帰国のニュースを伝える中、家族や故郷の尊さを痛感。生まれ育った北海道のために働きたいという願いが湧いてきたんです」。10年間キャスターを務めた「uhbスーパーニュース」では、「ただニュースを読むだけなく、自分の物差しを持って現場を取材し、自分の言葉で世の中に発信するのがキャスターの役割」という信念のもと、夕方ニュースの顔として視聴者の信頼を集めました。

“北海道孝行”的願いは、2015年から2年間放送された「DOサンデー～北の開拓者たち～」に結実しました。「北海道で頑張る人や企業を紹介し、その姿を通して視聴者に元気を届けたいと思って取り組んできました。番組を通して感じたのは、開拓者とは自分の人生に限界を作らない人なんだということ。年齢や環境などを理由にやりたいことを諦めなくてもいい、誰もが人生の開拓者なんだと気付かされました」。その後松本さんは札幌の歴史を紹介する「札幌クロニクル」(昨年10月～12月放送)を担当。昨年12月には北星学園にまつわるエピソードも披露されました。

医療キャスターをライフワークに

松本さんには「医療キャスター」というもうひとつの顔があります。「きっかけは母のがん。当時はがんに関する知識がなく、ネットで調べても情報がありすぎてパニックになりました。その時、私と同様に困っている方が大勢いるはずだと気付いたんです。キャスターとして正しい情報を取材し、テレビを通して伝えるべきだと思いました」。これを機にシリーズ特集「がんを防ごう」を担当。企画から取材、構成、編集、プレゼンテーションまですべてひとりで手がけています。視聴者からは「乳房再建手術を受ける決心ができた」「検診に行こうと思った」などの声が寄せられることも。「自分の取材が誰かの人生を変える力を持つことに心を動かされました。がんの取材は私のライフワーク。暗闇で苦しむ人々に救いとなる情報を発信し、一筋の光をもたらすことが私の使命です」。

キャスターとして輝き続ける松本さん。その胸には、本学の校名の由来である聖書の一節「Shine like stars in a dark world.(世にあって星のように輝く)」が常に宿っています。



UHB「みんなのニュース」で毎月末放送中の「がんを防ごう」。最新の予防・治療法、がんとともに生きるための正しい情報を伝えています。



「DOサンデー～北の開拓者たち～」では、新時代を切り拓くさまざまな分野の開拓者94人の現場をリポート。



『さっぽろ文庫』に基づき歴史を辿る「札幌クロニクル」。第10話では、母校・北星学園も取材しました。番組HPにて全10回の放送を公開中。
<https://uhb.jp/program/sapporochronicle/> (2018年3月末まで公開予定)

札幌クロニクル
の動画はこちら
からご覧ください。





学校法人 北星学園 創立130周年 記念式典・記念講演会が開催されました

2017年、学校法人北星学園は創立130周年を迎えました。これを記念して同年9月30日、北星学園女子中学高等学校のスミス記念講堂で記念式典および記念講演会が開催されました。当日は数多くの関係者および卒業生の皆さんにお越しいただき、130年の歳月が紡いだ絆を改めて実感するひとときとなりました。

130年の歩みを祝い、
いのちの未来を思うひととき

記念式典は、塩見耕一学園宗教主任会議議長(余市高宗教主任)の司式で進行。大山綱夫理事長の式辞に続き、高橋はるみ北海道知事の代理として北海道総務部法務・法人局長の成田祥介氏、キリスト教学校教育同盟東北・北海道地区を代表し、理事の佐々木哲夫氏よりそれぞれ祝辞を賜りました。

式典には、本学園の創立者サラ・C・スミスの所属教会であったアメリカ合衆国ニューヨーク州のエルマイラ第一長老教会からもゲスト7人が参加。お嬢様が北星学園女子中学高等学校に留学し



ていたクレア・バンデンブリンクさんからは、ニューヨーク州議会議員による北星学園とエルマイラ第一長老教会との交流の意義を高く評価する宣言が紹介され、会場は大きな拍手で包まれました。

その後、日本基督教団北海教区総会議長である久世そらち氏による感謝の祈祷が行われ、心を合わせて頌栄を讃美し、記念式典が終了。続く記念講演会では、淀川キリスト教病院理事長・名誉ホスピス長、大阪大学名誉教授、ホスピ



柏木哲夫氏の講演会

ス財団理事長を務める柏木哲夫氏にご登壇いただき、『いのちへのまなざし』と題する講演が行われました。柏木先生が診療を通じて感じこと、「よき生」「よき死」について思うことなどのお話は、聴衆一人ひとりが生と死について考えるきっかけとなったようです。



Hokusei Gakuen

学校法人 北星学園

「学校法人 北星学園」シンボルマーク・ロゴタイプを制作しました

創立130周年を機に学園各校が一層絆を深め、世にあって星のように輝く人材を育むことを願い、学校法人のシンボルマークとロゴタイプを制作しました。北星の名の由来である聖書の一節「Shine Like Stars in a Dark World」をモチーフに、北海道の女子教育を使命として学園創立に尽力したサラ・C・スミスと7人の教え子をイメージした北極星と7つの星があしらわれています。

北星学園130年と

- | | |
|------|---|
| 1869 | 開拓使設置、蝦夷地を北海道と命名 |
| 1871 | 開拓使顧問として米国人ケプロンを招く |
| 1875 | 最初の屯田兵198戸965人琴似へ入植 |
| 1882 | 開拓使を廃止、函館・札幌・根室の3県を設置
小樽手宮・幌内間道内初の鉄道開通 |
| 1886 | 3県1局を廃止し、北海道庁を設置 |
| 1887 | サラ・C・スミスにより後のスミス女学校が札幌市北1西6に開校(1月15日)
 |
| 1888 | 北海道庁の本庁舎(現在の赤れんが庁舎)落成 |
| 1894 | 札幌市北4西1に移転し、北星女学校に名称変更
 |
| 1904 | 屯田兵条例廃止 |
| 1920 | 第1回国勢調査(北海道人口2,359,183人) |
| 1923 | 戸長役場を全廃し、町村制拡張
(市6、一級町村 99、二級町村 155) |
| 1950 | 第1回さっぽろ雪まつり開催
北海道開発庁を設置 |
| 1951 | 学校法人北星学園に組織変更
北星学園女子短期大学設置(英文科) |
| 1958 | 北海道大博覧会開催 |

学校法人 北星学園は北海道150年記念事業のパートナーに認定されました

2018年、北海道は「北海道」と命名されてから150年目の節目を迎えます。北海道では「北海道150年事業基本方針」に基づく記念セレモニーなど、さまざまな事業が展開される予定です。学校法人 北星学園は事業の趣旨に賛同し、北海道150年記念事業のパートナーに認定されました。



2018年は北海道150年
Hokkaido's 150th Anniversary

北海道150年の歩み

1962

北星学園大学設置（文学部英文学科・社会福祉学科）
北星学園女子中学校、同女子高等学校に名称変更
北星学園男子高等学校設置
創立75周年記念式典挙行



1964

大学が大谷地（現・厚別区）に移転



1968

北海道百年記念祝典開催

1972

第11回冬季オリンピック札幌大会開催
札幌市政令指定都市に指定

1987

大学経済学部に経営情報学科増設
男子高等学校を新札幌高等学校に名称変更し、共学化
創立100周年記念式典挙行



1988

青函トンネル開通、新千歳空港開港

1990

第2回アジア冬季競技大会開催

1992

大学に大学院設置（文学研究科）

2005

「知床」が世界自然遺産に登録

2007

創立120周年記念式典挙行

2008

北海道洞爺湖サミット開催

2012

大学開学50周年記念式典挙行

2017

創立130周年記念式典挙行

北海道150年タイアップ企画のほか、「北海道みらい事業」に認定されたゼミの活動も

2018年に131年目の新たな一步を踏み出す学校法人 北星学園は、先人の睿智を次世代に伝え、北海道の未来を担う教育機関として、北海道150年記念事業のパートナーを務めます。今年は北海道150年とタイアップしたコンサートまたは講演会、北海道開拓期と当時の女子教育に関する研究会、北星学園女子中学高等学校内・創立百周年記念館でのコンサートなどを開催していく予定です。

また、北星学園大学文学部心理・応用コミュニケーション学科 濱保久教授のゼミを中心に毎年開催している「ヤチフェス」（2005年～）、経済学部経営情報学科 西脇隆二教授のゼミで取り組んでいる「北星オリジナルワインプロジェクト」（2009年～）が「北海道みらい事業」に認定されました。北海道150年事業の基本姿勢である「未来志向」「価値創造」「道民一体」を軸として、今後の活動に一層力を注いでいく所存です。

明治の開拓期から現在まで、北星学園の歴史は北海道の発展とともにありました。北星学園は、これからも北海道とともに歩んでまいります。



「ヤチフェス」10周年記念の集合写真
(2016年2月)



「北星オリジナルワインプロジェクト」
台湾での試飲イベントのようす

北星学園の北海道150年記念事業

～北海道150年と北海道における女子教育130年～

北海道開拓期に始まった北星学園の女子教育は、130年後の現在に脈々と受け継がれています。北星学園は開拓の歴史と女子教育の歴史を結ぶプログラムを通して、先人から受け継いだ財産を次世代の北海道づくりに継承していくことを願っています。

2018年の記念事業開催予定プログラム

6月： 北海道150年タイアップコンサートまたは講演会（北星学園大学）
北海道開拓期と当時の女子教育に関する研究会（北星学園大学）

7月： 北海道150年タイアップコンサート
(北星学園女子中学高等学校内・創立百周年記念館)

9月： 北星学園女子高等学校音楽科定期演奏会（札幌コンサートホールKitara）
10月： 北海道開拓期と当時の女子教育に関するトークセッション
(北星学園女子中学高等学校内・創立百周年記念館)

みんな 北星に行こう!

大学には、地域のみなさまにもご参加いただけるイベントがあります。今回はその中から、2月に開催されるイベントと1年を通じて定期的に開催されているチャペルコンサートなどをご紹介します。



ヤチフェス

日 時 2018年2月17日(土)10:00～16:00
(10:00／開会式 15:40／閉会式予定)
※雨天候の場合は中止となります

場 所 北星学園大学 第1グラウンド

注意事項

- ①開催時間内であれば、いつでも参加することができます。
- ②屋外での活動となりますので、スキーウェアなどの暖かく濡れてもよい服装でご参加ください。
- ③軽食は有料ですが、イベントの参加は全て無料です。
- ④車でお越しいただくことができます。駐車場入口で「ヤチフェス」で来学の旨お伝えください。

「大谷地スノーフェスティバル(通称「ヤチフェス」)」は、雪遊びを通して大学生が地域の皆さまとの交流を深めることを目的に、北星学園大学のグラウンドで行う小学生を対象とした雪祭りです。本学文学部心理・応用コミュニケーション学科 濱保久教授のゼミ生が中心となり、イベントの企画・設営・運営を行っています。今年のヤチフェスも「チューブすべり」「ストラックアウト」「障害物競走」など楽しい企画が盛りだくさん!自由に遊べるかまくらや広場など、小さなお子さまにも楽しんでいただけるスペースもあります。ご家族やお仲間でお誘い合わせの上、ぜひ遊びに来てください。



チャペル コンサート



北星学園大学では、毎年チャペルにてコンサートを開催しています。2017年度は、5月にオルガン、6月に弦楽四重奏、9月にピアノ、そして11月にはヴァイオリンやテノールによるコンサートを開催しました。演奏会のほかにも落語などさまざまなイベントを開催しています。参加無料で一般の方にもお楽しみいただけますので、ぜひお気軽にお越しください!



予約が必要なコンサートもありますので、詳しくは北星学園大学ホームページの「イベントカレンダー」をご確認ください。



北星学園大学 ホームページ
「イベントカレンダー」をチェック! ➔

星学祭



毎年10月の連休に北星学園大学の学校祭「星学祭」を開催しています。恒例の「もちまき」や「砂金堀り」「bingo大会」、演武同好会によるYOSAKOIの演武などが行われるほか、豪華アーティストによるスペシャルライブも行われます。多彩な模擬店も大人気!昨年は学生広報委員キタボシもたこ焼き屋を出店し、本場大阪の粉を6種類ブレンドしたこだわりのたこ焼きが大好評でした。星学祭は、一般の方もお越しいただくことができます。今年も10月に開催しますので、ぜひ北星に遊びに来てください。日程等詳細は9月下旬頃、大学ホームページにてお知らせします。



本学では、学生はもちろん保護者や地域のみなさまに有意義な取り組みを多彩に展開しています。2017年度後期に実施した事業や活動の一部と大学からのニュースをご紹介します。

「北方領土の日」ポスターコンテストで 本学学生9名が最優秀賞(総合)などに入賞しました

本学短期大学部生活創造学科の専門科目「グラフィックデザイン演習Ⅰ」(担当:川部大輔准教授)では授業の一環として「北方領土の日ポスターcontres」(北海道主催)に毎年出品しており、数々の入賞実績を築いています。今年は全国から243点もの応募作品が集まつた中、生活創造学科2年の佐藤ひなさんが最優秀賞(総合)に輝いたほか、9名が入賞を果たしました。



アジア3カ国との交流を深める「EASCOM」が開催されました

本学は毎年10月に中国、韓国、台湾の協定校から学生を迎えて、日本の文化や北海道および札幌について学んでもらうほか、本学学生との相互交流を深めることを目的として、約10日間の東アジア学生交流プログラム(East Asia Student Communication Program : EASCOM)を実施しています。本プログラムは本学の学生が企画から実施・運営までを手がけています。2017年も大連外国语大学(中国)、東海大学(台湾)、カトリック大学校(韓国)から14名の学生が本学を訪問。期間中、3カ国の代表的な料理や飲み物を販売する「アジア屋台」、留学生と本学学生が気軽に交流できる「立食パーティー」、プレゼントや出し物で各國の文化や風習を紹介する「アジア舞台」が行われました。北星学園大学は、海外からの短期受け入れ学生と楽しく触れ合い、日本以外の国の文化を感じられる機会を数多く設けています。

大学ブランド・イメージ調査で 北海道の「センスがいい、かっこいい大学」 No.1に選ばれました

2017年11月29日に「大学ブランド・イメージ調査(2017-2018)*」の調査結果が発表され、国公立を含む北海道の大学ブランドランキングにおいて本学が6位にランクインしました。また、設定されているイメージ49項目のうち「センスがいい、かっこいい」「語学に長けている」の2項目において北海道地区第1位となりました。



*国内9地域のべ457大学を対象に、各地域のビジネスパーソンや父母、教育機関従事者が抱くイメージを数値化する調査です。



高校生を迎えて 「English Camp in 北星 2017」が 開催されました

2017年10月14日・15日、高校生を対象とする「English Camp in 北星 2017」が1泊2日で開催されました。昨年度に続き2回目となるこのイベントは、多言語・多文化の現象に关心を持つ高校



生18名と本学の学生および留学生が、原則として英語を使って2日間の共同生活を体験。グループワークやプレゼンテーションを通して、他者理解の重要性と実践的な英語を学びます。自らとは異なる言語・文化との出会いは、各自の学びを深めるとともに、国際的視野を広げるきっかけとなるものです。参加した高校生はグループごとのテーマに基づき、ディスカッションやプレゼンテーションを行いました。テーマについて調べた内容を明快にまとめあげ、自分が感じたことや考えをしっかりと英語で発表する姿に審査員も感心しきり。紹介するテーマの曲に合わせてダンスを披露したり、キャラクターに合わせた髪型で登場するなど、高校生らしい発想で会場を沸かせました。

経営情報学科創設30周年記念 公開講座が行われました

2017年11月10日、本学経済学部経営情報学科の創設30周年を記念して公開講座が開催されました。数々の有名なCMの生みの親であり、映画の脚本なども手掛けている株式会社電通エグゼクティブのクリエイティブ・ディレクター／CMプランナー 澤本嘉光氏をお迎えし、「メディアの進化と表現の深化」をテーマに講演していただきました。講座には学生のほか一般の方にも多数ご参加いただき、澤本さんが手掛けたテレビCMを観ながら、長さによって役割が異なるCMの意味などの解説に耳を傾けました。普段何気なく見ているテレビCMにもさまざまな理由や意図があることを知り、参加者たちは「広告」の持つ力や魅力を実感したようです。



他のニュースはホームページをチェック! 広報ニュースをご覧ください



TOPICS

「学生への市営住宅提供事業」に向けた 札幌市と本学との協定締結式を執り行いました

札幌市の市営住宅では入居者の高齢化が進みつつあり、自治会活動の担い手不足など、地域コミュニティの活力の低下が課題となっています。札幌市は市営住宅の空き住居を学生に賃貸し、入居学生が団地の自治会活動に参加することで地域活性化につなげる「学生への市営住宅提供事業」を企画し、本学が協力を依頼されました。

本学としても地域貢献は大学の責務であり、市営住宅に入居する学生にとっても自治会活動への参加はコミュニケーション能力を養う好機と考えて協力を決め、昨年11月27日に事業協定の締結式を執り行いました。

本学学生には厚別区「もみじ台団地」N団地16～28号棟の住戸のうち、4～5階の空住居4戸程度を提供(目的外使用許可)していただきます。入居した学生は札幌市に家賃を納めながら地域の自治会活動に参加し、清掃活動やお祭りなどのイベントに協力。本学は入居者の募集および選考、入居学生への指導や支援などについて協力します。入居開始は2018年4月以降を予定しています。



北星学園大学オリジナルグッズが当たる！

まちがいさがしクイズ

[今号のまちがいさがしスポット]

ホワイエ

中庭に面した2階まで吹き抜けの開放的なエントランスホール。

デジタルサイネージが5台設置され、学部ごとの講義関連情報や公開講座などの各種イベント情報がタイムリーに表示されます。



★応募要項

ハガキに以下の内容をご記入の上、下記送付先までご応募ください。

- ①問題の答え(まちがい5個)
- ②郵便番号
- ③住所
- ④氏名
- ⑤電話番号
- ⑥HOKUSEI@COMのご意見・感想

送付先:〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号

北星学園大学 HOKUSEI@COM「まちがいさがし」係

2018年3月15日(木)必着

★正解発表

『HOKUSEI@COM』25号(2018年8月発行予定)に掲載いたします。

※ご応募は1号につき、おひとり様1回までとさせていただきます。

※正解者の内から厳選なる抽選の上、当選者を決定いたします。当選の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

※お送りいただいた情報は賞品の発送のみのために使用させていただきます。

※ご住所・転居先の不明等で賞品をお届けすることができない場合は、当選を無効といたします。

[前号の正解]

